

発行・編集

伊達市企画財政部企画課
 〒0142-23-3331 内線238・239
 FAX 0142-23-4414
 E-mail kouhou@city.data.hokkaido.jp
 〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

として保存しましょう



Close up だて



— この土地の 空気密度がちょうどいい —

たか 橋 陽 子 さん
 (末永町)

移

住の地として名高い伊達市。平成16年度から、市としても積極的に移住の取り組みを進めてきました。

北海道にしては温暖な土地、山と海の両方が味わえる豊かな自然。昭和新山や有珠山、羊蹄山は市民が愛着を持っている風景になくはない山々です。

今年1月に伊達市民になった高橋陽子さんの移住の決め手も「羊蹄山が見えること」だったそうです。

「両親が転勤族で故郷がない感じがあった。富士山が好きで冗談で『富士山が私の故郷よ』って」世界を飛び回り忙しく働いてきたが、6歳を過ぎた頃に休むことを思い立つ。場所は思い出深い洞爺湖近辺で蝦夷富士(羊蹄山)が見えることが条件でした。

「最初は寂しいところだと思いました。引越した当日の午後4時半頃に街中に出ても人はいないし暗いし。でも、知り合いに誘われて行った飲食店にはたくさん人がいて皆が気さく。距離感もちょうどよくて、今はここが私の居場所って感じですよ」

休むために住み始めたこの街でも、変わらずにバイタリティ溢れる生活は続いています。未だ輝き続ける秘訣は、ご自身が持つ豊かな好奇心。それは周りの人にやる気とパワーを与えてくれます。

今、高橋さんは、観光協会のフェイスブック特派員の1人として移住してきた人ならではの視線で積極的に活動しています。住みながら色々なことを考えるのが楽しいと話してくれた高橋さんは、これからも、自身はもちろん周りへも輝きを与えてくれそうです。

Npo法人だて観光協会-北海道 伊達市
 23時間前

【自然】もどり秋(?)
 ハシヤスメにご覧ください。
 外は秋がもどってきています! ¥(〜〜)
 (特派員 高橋)



いいね!・コメントする・シェア

高橋さんが感じた「伊達の秋」を観光協会のFacebookで紹介しています

表紙のはなし

11月19日、「連合自治会協議会」の委員9名が保健センターで「そば打ち」を体験しました。

五月会の方々に教えてもらうそば打ちはかなりの重労働。エプロンを身に付けそばを打つ額には汗が光ります。

約1時間かけて、美味しいそばができてあがりました。



楽 画 記

■冬です。係ではスキーの話題がでています。スキーが大好きな(じ)さんは夏から体づくりを始め、スキーブーツの履き心地を熱く語ります。今年、我が家でも息子がスキーデビューしますが、頂いたウェアとブーツを履いてはしゃぐ様子は(し)さんと同じ空気が。息子よ、ケガには気をつけて(と)

■11月12日未明、猛烈な腹痛で目が覚めた。医師の診断は「ウイルス性」急性胃腸炎! 平熱で、倦怠感もないのに腹部にだけ痛みが…お腹が張ったような「膨満感」で眠れぬ夜2日。実は急性胃腸炎には「ストレス性」もあるらしい。きっと原因は(と)(や)2人の圧力…ほらっ、今も(や)さんからしっかり圧力が!! (じ)

■締め切り…広報紙作成の過程では「締め切り」という言葉が重くのしかかっていますが、今年4月になってから庁内各係からの原稿の提出が目に見えて早まっています。締め切り前に提出してもらえるのは大変嬉しいのですが、早くなったのは何故? これも圧力効果? そうであれば圧力の主は私ではなく…? (や)